

より上を目指す学びと継続的な市民活動を促進する
「入間市民元気カレッジ」
に向けた調査研究

2009年11月1日

入間市生涯学習をすすめる市民の会

はじめに

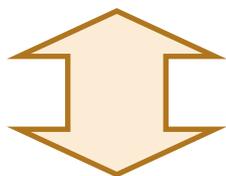
- ◆ 生涯学習都市あるまのビジョン：
 - 主体的な学びと活発な市民活動のあるまち
 - コミュニティが充実し、心が通い合うまち
 - 市民と行政が協働するまち
- ◆ これを目指して、様々な取り組みが個々に進められてきた
- ◆ これを更に促進する枠組みとして「入間市民元気カレッジ」構想について調査研究を行っている

生涯学習の理念

- ◆ 自己研鑽を通じ、元気な入間を担う新たな人材を可視化
- ◆ その人材が元気な入間のまちづくりに連携すること

自己研鑽（さらに上を目指し）

教える市民



学ぶ市民

自己研鑽の深彫り（学びのサイクル）

学ぶ → もっと学ぶ → 指導する



まちづくり活動

地域課題の提示
活動参加の要請

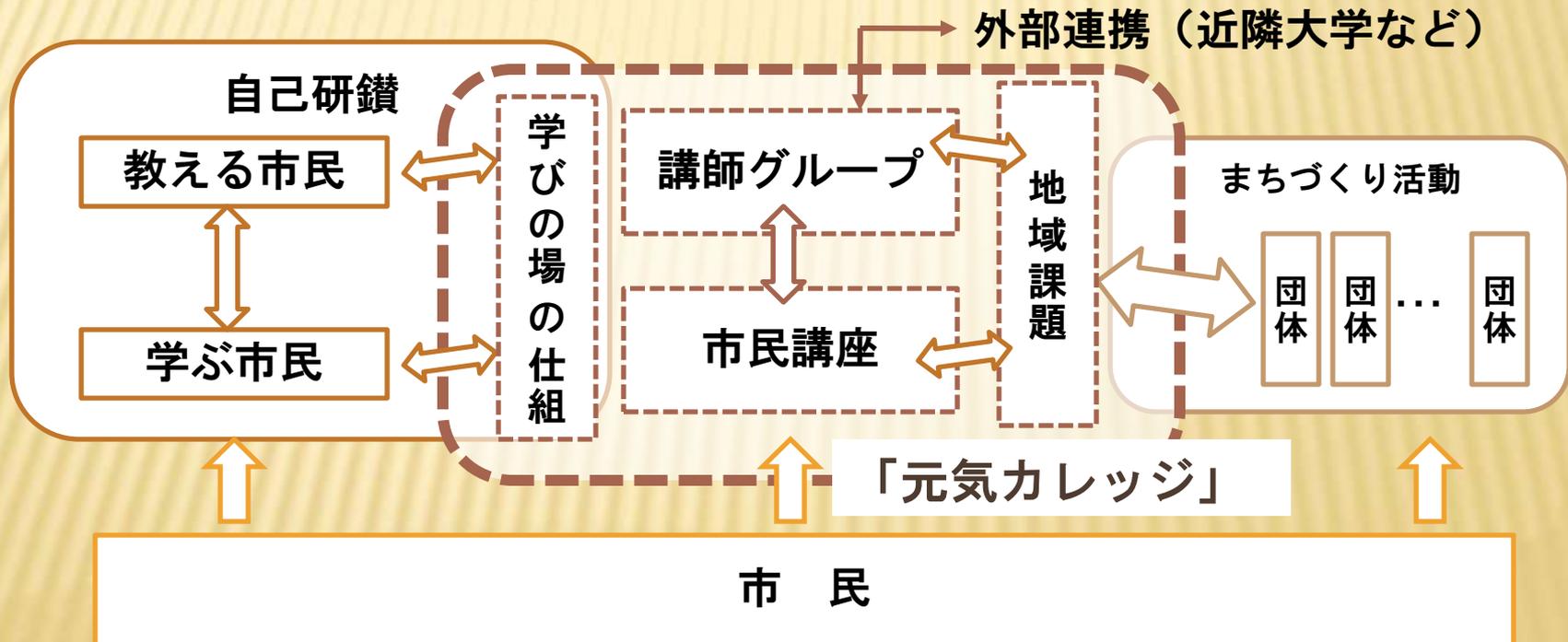


現状認識と問題意識

- ◆ 公民館サークルなど学びの場は多数あるが、もっと上を目指す学びには至らない
- ◆ その結果、学んだ市民が更に上を目指し、地域で指導者になる例が少ない
- ◆ 現在市内で実施される、市民のいるま塾、いるま市民大学、豊岡プテ大学などは単体として整備された内容を確保しているが、受講生がその先進む場所がない

「入間市民元気カレッジ」構想とは

- ◆ 自己研鑽における学びのサイクルを強化し、その上で市民のまちづくり活動への連携を促進させる仕組み・・・を概念的に表現したもの



構想のポイント

- ◆ 市民専門という概念導入
 - ◆ 子育て専門、高齢福祉専門、写真専門、PC専門
 - ◆ 環境専門、健康専門、まちづくり専門
- ◆ 市民専門家は、
 - ◆ 学んだ市民が教える市民になる（市民専門家）
 - ◆ 市民専門家は、地域課題を実践テーマとする
- ◆ 元気カレッジの場では、
 - ◆ 市民専門家が講師団としてより上を目指すグループを形成
 - ◆ 市民専門講座を定期的を開催
 - ◆ 自己研鑽サークルや市民活動団体との連携の場
- ◆ 元気カレッジへの入学
 - ◆ 一般教養課程および専門課程に所属
 - ◆ 受講する市民負担が原則（立上げ時には市の補助も考慮が必要）

検討課題：市民専門の実態

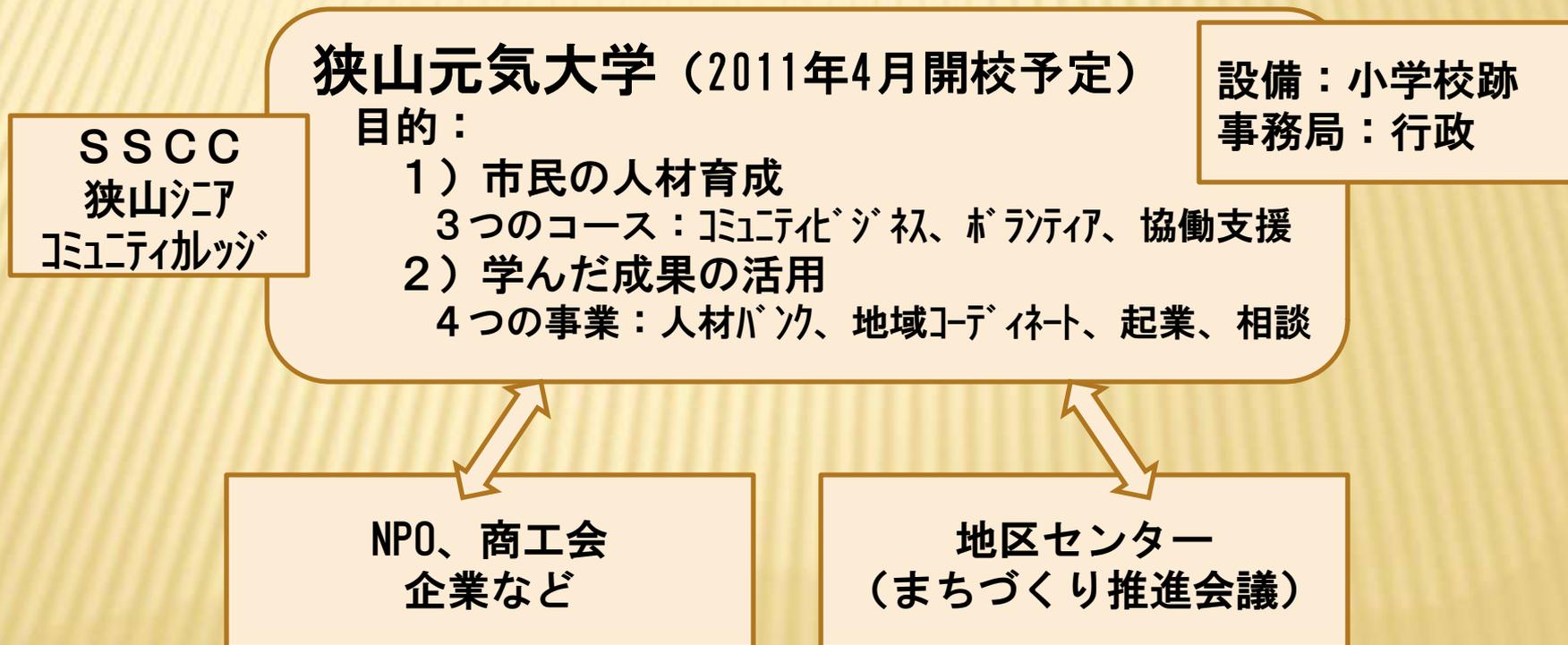
- ◆ 学んだ市民が教える市民になる実例→当面の調査
 - サークル、団体での実例は？
- ◆ 学びの場の新たな仕組みづくり
 - 学びの場の環境、設備、人材などの条件は？
- ◆ 講師リストから見た市民専門
 - 現在の講師リストからどのような市民専門が想定されるか？

事例調査の対象

- ◆ 入間市のサークルの事例
 - 公民館サークル：入間PCを楽しむ会、中央公民館
 - 公民館との意見交換：情報部会実施
 - ALITお茶大学：入間市博物館
- ◆ 学びの場の現状
 - 仕組みとして図書館の活用
 - 学び講座の例
- ◆ 狭山市の狭山元気大学構想の事例
 - 狭山市役所企画課訪問：ヒアリング
- ◆ その他地域での事例
 - はちおうじ志民塾：協働推進課

事例調査：狭山元気大学（その1）

◆ 狭山市政策企画課を訪問してヒアリングを実施



事例調査：狭山元気大学（その2）

◆ 入間市との比較を行いました

| | 入間市 | 狭山市 |
|----------|--|--|
| 行政方針 | <ul style="list-style-type: none">*いるま生涯学習プラン21*まちづくり基本条例～協働が伴う流れ | <ul style="list-style-type: none">*行政トップダウンによる実績作り（SSCC、地区センタ） |
| 市民活動のしくみ | <ul style="list-style-type: none">*市民活動センター*中間支援組織（市民の会、まちサポ元気） | <ul style="list-style-type: none">*地区センター（まちづくり推進会議） |
| 市民活動の助成 | <ul style="list-style-type: none">*市民の会への助成*市民提案型事業実施を検討中 | <ul style="list-style-type: none">*まちづくり推進会議で20万円／年・団体（センター当たり100万円） |

事例調査：市民が教える例（IT講師）

- ◆ IT講習での講師登録は約50名
- ◆ その中からメイン講師級11名が集まり、入間市民パソコン講習企画運営委員会を発足（9名）
 - VISTA講習用のテキストを作成し、講習の企画も立案
 - 今後は中央公民館のパソコン講習事業も計画中
- ◆ このようにIT講師については市民が着実に参画
- ◆ 今後の課題
 - 各公民館のパソコンサークルとの連携法
 - インターネット講習についての方向

事例調査：はちおうじ志民塾

- ◆ 2年前から検討委員会で企画を進める
 - 市民活動協議会（植村氏）、フージョン長池（富永氏）、CBS（永沢氏）など
 - サイバーシルクロード（ビジネスお助け隊、会員60名）などが協力支援
- ◆ 今年度のスタート状況：塾受講生（基礎課程29名、専門課程19名うち2名女性）
 - 基礎課程、専門課程それぞれ、15,000円（1,500円／2時間講座当たり×10講座）
 - 対象は自分で何かやりたい市民：塾で学び、塾で仲間を得たい
 - 60歳台が主で50歳台など
- ◆ 塾の告知として、2月にプレイベントを実施、NHKの堀尾正明氏の講演と司会で塾開校を盛り上げる
 - 更に、5月には、塾に関する相談会を3回実施
- ◆ 5カ月の講習が終わったら、市民活動支援センターとの連携も
- ◆ 八王子市は、500万円の事業費を準備、更に塾の事務局を運営。ただし設備を持ってはいない

事例調査：ALITお茶大学

◆ 内容：お茶についての講座

- 今年度コースは基礎講座3回から入って各コースに分岐
- 定員：30名
- 受講料：今年度1,000～3,000円
- 講師：ほとんどが博物館学芸委員、必要に応じて外部講師
- 何年か活動をした人の中には、講師のサポートとして活動をする人が出てきた

◆ 将来に向けて

- 「入間市を知る」と言う分野も重要
- 博物館の学芸委員がメニューに沿って協力できる部分はある
- 博物館の講座室、工作室、展示室は利用できる

事例調査：より上を目指す学びの例

- ◆ 公民館での受講者から講師になった市民
- ◆ 初めは、まず学ぶ
 - 公民館のフラワーアレンジメント教室
 - 6年目に習っていた講師に上を目指すことを勧められる
- ◆ そして、講師を目指す
 - 2年間講師になる資格を取るための学習を開始
 - フラワーアレンジメント協会（FDN）の資格を得る
 - それから公民館で教え始め8年が過ぎる
 - 現在、公民館で20名、そして自宅でも教えている

事例調査：図書館の活用、学び講座

◆ 図書館の活用について

- 特徴：必要な図書の貸し出しができる
- 現状：子どもたちに読み聞かせなどの活動
- 読書会なども過去行ったことがあるが、現在は無い
- 生涯学習の勉強会に参加の仕方を、話し合っている

◆ 学び講座について

- 文学講座
- 入間市と連携する講座：
- 入間市を知る講座：歴史、考古学、石川製紙史跡
- ボランティアの講師要請講座
- 講座に必要とする講師講座

むすび

- ◆ 入間市において、より上を目指す学びと継続的な市民活動とを促進する「入間市民元気カレッジ」に向けた調査研究を開始した
- ◆ 今年度は、市内の事例や他市の現状を参考にしながら、市民の会で元気カレッジ構想の内容を更に検討していく
- ◆ 元気カレッジ構想を基に今後は、入間市における生涯学習の在り方、仕組みを明らかにしていきたい